

Episode1

俺が女の体になってから一年ほどが過ぎた。現在二十五歳だ。元々俺は男だったのだ。それがある日突然、「神」という奴に魔法をかけられて、女になってしまったのだ。最初は慌てたが、女装趣味のあった俺には、嬉しくもあった。

何しろ性転換手術をしなくても、女になれたのだから。しかも本物の女の体なので、生理もあれば、子供も産める。世の中の性同一性障害の人が聞いたら、羨ましく思うことだろう。

今では「神」に感謝している。しかし女になったことで苦労もたくさんあることに気づいた。

メイクは毎日しなければならぬ。男時代の時は、女装をする時だけメイクをしていけばよかったが、女の子になったらそうはいかない。働いていたら毎日メイクをしなければならぬのだ。

これが結構大変だ。面倒くさがり屋の俺には意外と負担になる。早起しなくてはならないし、もちろん寝坊など出来ない。夜は夜でお肌のお手入れもしなければならぬ。男の時はそんなことしていなかったので、本当に女性の大変さを知った。

街を歩けばいろんな男に声を掛けられる。しかも何度も。鬱陶しくて仕方ない。俺も男時代の時には、たまにナンパをしていたが、それはすごく迷惑なものだと痛感した。今まで俺が声をかけた女性のみなさん、本当にゴメンナサイという感じた。

男から女になった時は、女としての生活に戸惑い、不慣れだったが、姉貴

のサポートもあり、今ではかなり慣れた。公衆トイレも普通に女子トイレに入れる。最初の頃は長年の癖で、男子トイレに入ってしまうこともあった。トイレに入った時に、男性陣から変な目で見られて、やっと気づくのだ。「男子トイレですよ」と怒られることもしばしばあった。

初めから女性であれば、決してそんな失敗はないと思うが、俺の場合は男の時代が長かったので、それが急に女になり、女としての生き方がまだ掴めていない状態なのだ。これから失敗がまだまだあるかも知れない。

さて、俺は今、池田画廊という所で働いている。ここの仕事は画廊のスタッフであり、絵を売ることだ。

オーナーの娘、池田静子さんと、この画廊で出会い、付き合い始めた。お互い本気で愛し合ったのだが、静子さんは胃癌であっけなく逝ってしまった。